

KIRP NEWS LETTER

25
2022.5

NEWS

【ACTR】2022年度京都府立大学

地域貢献型特別研究(府大ACTR)が決まりました！

本学では、京都府内の地域振興や産業・文化の発展等に貢献することを目的として、2004年度から地域貢献型特別研究(ACTR)に取り組んでいます。今年度は次の19件の研究が採択されました。今後は本学教員を中心に各地域での調査研究が始まります。

研究課題	代表者	主な活動地域
過疎化が進む地域における文化遺産の地域資源化に向けての実践的研究 —京丹後市久美浜町須田区からの発信—	諫早准教授(文)	京丹後市
無病長寿の霊果といわれるムベ果実の食品機能性解析とそれを活用した地域おこし	中村教授(文)	福知山市
京都府北部のMALUI連携による文化資源を活かした地域づくり	東教授(文)	舞鶴市、 福知山市
城陽市特産物の文化的・文学的・国際的イメージの調査とそれを活用したプロモーションについての研究	山口教授(文)	城陽市
由良川がつなぐ海と森の京都 —宮津市由良地区と綾部市上林地区の文化資源の発掘と活用—	横内教授(文)	宮津市、 綾部市
京田辺市「住民協働型まちづくり協議会」の在り方提案	駒寄准教授(公)	京田辺市
「全世代・全員活躍型『生涯活躍のまち』(CCAC)構想」に基づく自治会活性化の実現に向けた「自治会活性化ビジョン」を活用した自治会の分析・調査及びICT化を含む実施施策の検討	駒寄准教授(公)	久御山町
西陣織の色彩特性が認知・行動に及ぼす潜在的影響に関する研究：雅色（みやびいろ）は、良いふるまいを促進するか？	石川准教授(生)	京都市
スマート農業を利用した鳥獣害軽減方法の確立と果樹栽培高度化技術開発	板井教授(生)	京丹後市、 精華町
京都在来ブドウ品種‘聚楽’の復活栽培に向けた技術開発と新たな利用方法の開発	板井教授(生)	京都府域
京丹後の海の魅力あるブランディングに向けた海水浴場の調査・分析およびデジタルアーカイブ化	岩崎准教授(生)	京丹後市
木材流通京都モデルの構築に向けたICTを活用した森林資源情報の把握と流通システムの社会実装に関する研究	神代准教授(生)	京都府域
「洛いも」の地域ブランド力強化に向けた褐変抑制・低温耐性系統の作出および普及戦略の構築	伊達講師(生)	精華町
城陽市の花「花しょうぶ」の生産現場で多発している土壌伝染性病害の防除に向けた調査研究	辻講師(生)	城陽市
大江山連峰の地質と地形を生かした自然循環農業の町づくり	中尾准教授(生)	与謝野町
北山杉・京銘竹等の京木竹材の標準化（規格化） —伝統工芸技術継承を含めた科学によるトップブランド化—	古田教授(生)	京都府域
府内環境を脅かす放置“京竹(きょうちく)”，和紙にならない“三桎(みつまた)”の化学的利用再考	細矢教授(生)	京都府域
京都府産宇治茶の安定生産と独自性確保に貢献する生育予測研究と宇治茶品種の遺伝解析	森田准教授(生)	和束町
京都府希少農作物が持つ有用成分を生かしたブランド化推進と商品開発	森本講師(生)	城陽市、亀岡市、 舞鶴市

(文)文学部、(公)公共政策学部、(生)生命環境科学研究科

ACTRとは？

ACTRは、Academic Contribution To Region の略で、「地域に貢献する学術研究」を意味します。京都府内の市町村、府内に立地する企業、NPO等から寄せられた地域課題の提案に基づき、本学教員とマッチングが成立した研究に対して、学内外の審査員による審査会を経て決定しています。

2021年度ACTR成果報告会

「関西文化学術研究都市における産業集積及び整備のあり方—精華町域整備完了を見据えて—」



昨年度まで、精華町からの派遣で当センターの研究員として在籍していた長田研究員のACTR研究成果報告会が、精華町役場で開催されました。

精華町における最後のクラスター開発である学研狛田地区の開発が完了した時点で、精華町が財政的自立を果たせるのかどうかということ、 「産業集積」と「人口定着」に着目して研究された内容でした。学研都市としての在り方や、現在開発中である学研狛田地区の整備の方向性の示唆を得られる大変興味深い内容でした。



報告会概要

日程 2022年4月27日(水)

場所 精華町役場交流ホール

主催 精華町

また、これまでの精華町からの派遣職員である河西さん、橋爪さん、長田さんに、当センターの研究員として活動されていたことに対しての修了証をお渡しさせていただきました。

精華町

「荒廃農地で食用桜の葉(オオシマザクラ)を無農薬で収穫可能か

— 荒廃農地の有効活用による地域振興 —

京都よさの百商一気合同会社と連携して進めている地域貢献型特別研究「荒廃農地で食用桜の葉(オオシマザクラ)を無農薬で収穫可能か — 荒廃農地の有効活用による地域振興 —」(研究代表者：糟谷信彦)について、2021年度の調査の概要と、得られた成果や新たな知見が報告されました。

報告会の概要

日程 2022年4月20日(水)

場所 与謝野町商工会本所大会議室

主催 京都よさの百商一気合同会社、京都府立大学

与謝野町



報告者

糟谷信彦(森林科学科助教)

当日は、中島武文京都府議会議員、行政関係者(与謝野町長、農林課長、商工振興課長)、与謝野町商工会長、山眞産業 平出社長、ほか地元の方々約25人の地域のみなさんが参加されました。質疑応答・意見交換にも加わっていただき、桜の葉の無農薬栽培の可能性について熱心な議論がされました。当日の様子は、地元の与謝野ケーブルTVで放映されました(4/25)。

桜楓講座～春の部～ご案内

京都府立大学では、毎年春と秋に公開講座「桜楓講座」を開講しています。各学部の教員が各々の研究内容をわかりやすく解説し、毎回好評をいただいています。今年度春の部は生命環境科学研究科から2テーマでオンデマンドの講座配信をします。是非ご視聴ください。



詳細はこちら

1 配信期間 6月24日(金)～7月3日(日)

「果物の品質改良—京都府立大学の取組—」

生命環境科学研究科 講師 森本拓也

2 配信期間 7月4日(月)～7月13日(水)

「昆虫が、植物に虫こぶを作る仕組みを解明する」

生命環境科学研究科 教授 佐藤雅彦

詳細はHPをご覧ください。 <https://kirp.kpu.ac.jp/>